

第 33 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

第 4 回社会教育委員会議	
開催日時	平成 31 年 1 月 30 日 (水) 午後 2 時～午後 5 時
会 場	クロスパルにいがた 4 階 402 講座室
出席者	<p>【社会教育委員】 伊比 宗宏、岡 昌子、小川 崇、雲尾 周、笹川 博人、杉山 節子、 田中 一昭、田中 宏和、本間 莉恵、山田 久美子、渡邊 彩 計 11 名 * 敬称略</p> <p>【事務局】 地域教育推進課長、中央公民館長、中央図書館長、中央図書館館長補佐、生涯学習 センター所長、生涯学習センター所長補佐 生涯学習センター職員 4 名 計 10 名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 第 49 回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会 参加報告 報告 1 に基づき、鈴木所長補佐が全体会の参加報告を、小川副議長が事例発表の 報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ⇒質問や意見はありませんでした。</p> <p>(2) 「南区コミュニティ・コーディネーター育成講座」視察 参加報告 報告 2 に基づき、各委員が参加報告を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校生の感性、身の丈に合ったものを提案していて、「スマホ講座」を 2 月に 2 回開催し、話し合っただけでなく実践につなげるということが素晴らしい。 これからも続けていけると、若い世代の育成になる。</li> <li>・ 校長先生が、白根高校は地元への就職希望が非常に強く、なおかつ地元の方に 協力いただいているため、地域に子どもたちをどう返すかということ普段から 苦心され、次世代をいかに育成していくかということを重視しているとのこと である。</li> <li>・ 地域によっては、伝統の行事とか地域住民との交流が希薄になっている。大通 地区の高齢者たちや住民が抱える課題に現役の高校生が目を向け、意見交換を して解決方法を見出そうとし、自分や家族、周りの人たちの経験をとおしてグ ループ内で議論し、考えを深めていくという活動の意義は大きい。今日、新聞 で報道されていたが、このような取り組みが評価され、社会的に価値のある活 動なのだとして認証していくシステムも必要だ。</li> <li>・ 南区では「未来創造教室」の補助金を使い、防災や地域課題を総合学習で学び、 南区長を招いて実際に提言するというを進めている小中学校もある。</li> <li>・ 白根高校は、地域に根差した学校経営を目指し、手を挙げた 11 名の高校生が とても充実していい表情をしていた。この高校生がどのような経緯で応募した かを明確にしていくと、一つのものが見えてくるのではないか。高校を卒業し て大人になっても、集まって地域で活動していくことができればいい。</li> <li>・ 高校生と大通地区のコミュニティ協議会や高齢者の支援組織が、グループワ ークにおいても実情を話すなど交流もよくでき、地域にとってもプラスに働いた のではないか。活動に見える「次世代育成」という視点では、受講対象者を最 初から白根高校の生徒と絞ったところが大きなポイントで、この世代を対象に した事業は人を集めるのが大変なため、高校の協力がなければできなかったの</li> </ul>

<p>内 容</p>	<p>ではないか。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <p>○子どもたちが行政に提言をしたとき、現実的にどのくらい受け入れられるか、事例を教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年くらい前に、8区で各区の「未来予想図」というものを作り、西蒲区では子どもたちがアイデアを出し、流しそうめんを企画して、実際に西蒲区地域課で実施したケースがある。</li> <li>・ 西区の教育ミーティングでは、地域課の事業に内野中学生の生徒が参加して提案した「内野地区イルミネーション」を西区が予算的なバックアップをして実現した発表があった。</li> <li>・ 白南中学校の子どもたちが、南区の大風合戦のときに観覧用に船を出せば、お客さんが一緒に乗って見ることができるというアイデアを出し、実現した。これは、「未来創造教室」のお金を一部いただき、みらいず works で子どもたちのアイデアを出した。学校で地域学習をして提言をするということは、厚みがしっかりとないと、行政で受け取られる提案にならない。白南中学校も、観光という意味で我々がウォーターシャトルの社長などを学校に呼んで話を聞いたから、彼らの中でいろいろとつながっていった具体的な話になった。子どもたちの意見をどう引き出して、今、ここでこういう人に出会うと子どもたちの意見が深まるなというところを手助けしてあげないと、難しい。</li> </ul> <p>(3) 「そらいろ子ども食堂」視察 参加報告</p> <p>報告3に基づき、各委員が参加報告を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前の打ち合わせ、準備、当日の運営、全部学生たちがやっていて感心した。来ている子どもたちもすごく嬉しそうで、地域のお年寄りも孫が来るから毎月来ていると言っていた。</li> <li>・ 運営委員は学生のみ20人くらいで、ボランティアに来た学生たちに必ず取り組みの話をし、次は運営委員会に入ってもらおうとしている。</li> <li>・ 活動に見える「次世代育成」として、いずれの大学の学生にとっても、専門で学んでいることとの結びつきの実感をもって活動している。</li> <li>・ いわゆる子ども食堂というと貧困だけのイメージになるが、ここは誰でも参加可能で、ほかとはだいぶ雰囲気が違う。学生以外のボランティアも多く、やはりロコミは重要である。あるボランティアは父親が大学職員であり、他市から来ている高校生ボランティアは、兄妹が活動をしているなどである。広域から参加者が集まっているということも特徴である。</li> <li>・ 地域の方たちも食材の提供など、いろいろな形で協力できるところは協力している。集まっている学生たちも、普段は学業やアルバイトなどで忙しいが、強制でも、ボランティアとして来ているのでもなく、自分の日頃の学業にも生かされ、ここに来ると自分も嬉しく、生きる力が湧いてくると話をしてきた。ほかの大学の学生たちともコミュニケーションでき、皆と一緒に協力して考え、集まってくる人たちと一緒に盛り上げ、そしてまた次につなげていくのは楽しいと言っていたのが印象的だった。</li> </ul> <p>【主な質問・意見等】</p> <p>⇒特に質問や意見はありませんでした。</p> <p>(4) 全国社会教育研究大会新潟大会推進委員会について</p> <p>報告4に基づき、雲尾議長が会議参加報告を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p>
------------	--

<p>内 容</p>	<p>⇒質問や意見はありませんでした。</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) 第 33 期新潟市社会教育委員会議建議について</p> <p>協議 1 に基づき、枝並所長が建議の趣旨の修正について説明しました。</p> <p>○「世代を超えた学びの継承と創造」に対して「いろいろな世代の学びの充実と継続」、あるいは「充実と展開」、「充実と伸長」、どのような言葉の組み合わせがよいか。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「継承」と「創造」という言葉が同じ並列にあり、どちらがどういう意味合いで、どういう関係か。</li> <li>・「継続」について、二つの項目で、仮に「世代を超えた学びの継承と創造」の「創造」をとったものと、その次の「いろいろな世代の学びの充実と継続」の「充実」ととると、「学びの継承」と「学びの継続」はどう違うのか、イメージがつかみにくい。</li> <li>・「学びの継承」ではなく、「取組み」とか活動の継承と創造、あるいは「知恵の」というところであればわからなくもないが、「学び」だと少し違和感がある。</li> <li>・「学び」という言葉が、単なる学習行為だけで限定してしまうと、言葉のイメージとして後の「継承」、「創造」等の関連の中で狭まっていくということから、「学び」の概念を、学習行為だけではなく、それを受けての活動といったようなことまで含めて広げた場合に、「継承」と「創造」とか、「充実」と「何か」という言葉と合うかどうかということではあるのではないかと考えるのではないかと。</li> <li>・事例は一つの活動を二つずつに分けているが、どちらの要素もある。こちらで使ったからこちらは使えないというわけではなく、メインをどちらに置くかで今は分けている。どのような大きな括りを考えればよいかということになってくると思う。</li> <li>・第 32 期建議「学びの循環による人づくり」の 20 ページの (3) 高齢期というところで、「自己啓発や趣味などの活動にとどまり、地域社会へ還元している人や還元したいと思っている人が多いとは言えない」となっている。基本的に学びとか教育に一番大切なものは、まず好奇心であり、そこから始まった趣味であり、自己啓発からすべての物事が始まっていくのではないかと。好奇心を子どもたちに湧き立たせるような活動が、一番取り組まなければいけない活動のような気がする。</li> <li>・一つ目の「世代を超えた」というのは縦切りにした見方で、「いろいろな世代」というのは輪切りにした各年代層で、この両方が必要である。「学びの継承」というのは、例えば具体的に白根の風の綱というのは、綱のより方とかどの綱を使えばいいとか、相手の綱を切るためにガラスを埋め込めばいいとか、これは創造、新しく生まれた部分だ。代々伝えられてきた伝統があり、そこに若い人たちが新しい視点で加えていって今のあの文化があり、個々が学んできたことを次世代に伝えるというのは必要だ。これは大前提が地域社会の創生であり、個人の楽しみのための学びを「継承」ではなくて、自分の住んでいる地域を守っていくために、上の世代が下の世代に伝えなければいけないこともある。そのうえで、若い世代の人たちがどういった学びをしながら新しい視点で自分たちの地域に貢献するかというのが加わればいい。</li> <li>・「継続」が現状維持のようにも見えるということで、「展開」なり「伸長」なり「進展」なり、少し広がりをもたせたようなイメージの言葉でもいいのか。</li> </ul>
------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「継承」と「創造」は、どこに焦点を当てるかによって、順序が「創造」と「継承」にしたほうがいいのか変わってくる。事例研究の新潟砂丘遊々会が発足というところからであれば、「創造」が先にくるべきで、「継承」が後方ということになる。</li> <li>・中学校の子どもたちが、松浜の祭りに積極的に参加しようと取り組んでいる。まずは祭りに参加して、その中で伝えられたもの、それから自分たちで考えたものを少しずつ取り組んで、昨年からポスターを作ったり、旗を作ったり、少しずつ取り入れてもらっているの、「継承」が先のほうがいい。若い方は、先輩に対してはまず受け入れるという姿勢がほしいし、ずっとやってきた方は、若い人たちにもっと寛大に余裕をもって見てあげるとい姿勢がほしいと、地域で感じる。</li> <li>・重点をどう置くかということで、今、「創造」に重点があるということが合意されていれば、この語順でいいということになる。</li> <li>・「継続」よりは、それこそ「伸展」とか「展開」のほうが積極性を感じる。</li> <li>・「充実」と「発展」。</li> <li>・「拡張」、「拡大」。広がる。</li> <li>・「進化」。</li> <li>・「深化」。深まる。</li> <li>・実際、公民館でいろいろな世代を対象にした講座、教室の一層の伸展という、具体的なイメージは湧くか。社会教育施設の代表たる公民館がイメージを具体的にもてない言葉は使わないほうがいい。</li> <li>・伸びるは、今までの計画の中ではあまり使われていない言葉と感じる。学びから自発的にさらに発展させていくというのは、公民館の中でイメージはできる。(事務局)</li> <li>・今のやり方では限界があり、講座、教室の受講者の固定化や減少化ということがある中で、さらに伸ばすということは、どういうことか。</li> <li>・建議なので、今の計画はそれとして、私たちはこのようになってもらいたいという願いに対して、よりイメージしやすい言葉がいい。</li> <li>・今の厳しい現状で大きな飛躍というよりも継続するということでも十分ではないか。</li> <li>・言葉のイメージとして、それぞれの活動が伸展していく、拡大していくということなのか、「展開」の場合だと、「何店舗展開」みたいな、少し距離があってもエッセンスが広がっていくというようなイメージがある。</li> </ul> <p>⇒趣旨の中のもう一つのキーワードは「いろいろな世代の学びの充実と展開」とまとめる。</p> <p>○協議 1 に基づき、事務局から調査研究グループについて説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ⇒質問や意見はありませんでした。</p> <p>○協議 1 に基づき、事務局から調査研究活動（視察・懇談）について説明しました。 【主な質問・意見等】 ⇒質問や意見はありませんでした。</p> <p>(1)新潟市教育委員との懇談会について ○協議 2 に基づき、3月14日に予定している新潟市教育委員との懇談会について枝並所長が内容と流れについて説明しました。</p>
--	--

(2) 第 5 回社会教育委員会議の日程について

協議 3 に基づき、事務局から第 5 回社会教育委員会議の日程について説明を行いました。

⇒3月27日（水）午後2時からとする。

4 事例研究

(1) 『地域』を舞台にした循環型生涯学習について

資料に基づき、第 32 期建議『『学びの循環』による人づくり』から、「地域」について提言した内容について、本間委員が説明しました。

(2) 中之口若者有志グループ「やっこて」の活動について

資料に基づき、中之口若者有志グループ「やっこて」の活動について、代表の佐々木さんと堀さんから紹介いただきました。

【主な質問・意見等】

○一度新潟を離れ、帰ってきてしばらくしたら、それまでは何もないと思っていたが、そうでもない、それを見分ける価値観もなかったから見えなかったというお話であったが、例えば、戻ってきて新しく見えたものはあるか。

⇒自分たちが活動し始めたから見えたというのもあるが、新潟市のドリームハウスなど自分たちで活動している地域団体が多く、その団体とコラボレーションして、お金を目的とせず、新潟をよくするという思いだけで活動されているのを見て、いい地域だと思い、自分たちもそうなればいいと思っている。

⇒東北の被災地、沿岸に仕事で行っていて、少子高齢化が 10 年、20 年先に進んだような状態だが、中高生が地域活動をするなど、どの年代でも、自分のまち、市のために活動する人が多かった。そこで刺激をもらい、地元へ帰省したときに地域に目を向けたとき、実は精力的に活動している人がたくさんいて、上が下の世代に対して応援するような地域性もあったのだがそれを見ていなかったということに気づいた。

○若者がこれだけ集まるというところで、若者を集めるためにこだわっているところがあれば教えてほしい。

⇒若者をどう取り込んでいくかは、すごく気を遣っている。まず楽しくないと単発で終わってしまう。来ても付き合いだから、やらされとかになりかねないため、大前提でまずワクワクするかどうかというところを考慮している。

○親子交流会やパネルトークのときの広報、告知手段は何か。この手段だと集まるという手応えがあれば教えてほしい。

⇒若者世代は SNS が多く、フェイスブックが中心である。中間世代に対しては、中之口のコミュニティ協議会に依頼して便りに載せたり、地域で回覧したり、あとは草の根で地元のスーパーにチラシを置いている。興味をもって外から来る方は、SNS が多い。発信方法は主に、SNS と回覧と各店と防災無線の四つの方法で、ほかに小学校、中学校にも配布した。

○東京に出る前に、地域や学校や公民館等での何らかの経験により、自分の中に何か種があったからこそ、今こうしているというものはあるか。

⇒小学校低学年のときなど、高学年の先輩が遊んでくれた思い出や、小学校や中学校でも地域の郷土学習で勉強して知ったこともあった。それ以外に地元のおじいちゃん、おばあちゃんや、今私たちくらいの年齢の方も優しくしてくれ、ほっとする、地域で守られているという感覚があり、いずれ自分も地元のため何かしたいという思いは漠然と抱えていた。

第 33 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

	<p>⇒戻ってくるきっかけは人だと思ふ。活動は、高校生のときの塾の先生がしていた地域活動を手伝ったりし、自分もやってみたく思っていた。今後、小学校のキャリア教育でも、自分が小学校のときは先輩に相談できる人がいなかったが、中学のときこうだった、こうしたほうがいいということを知らせられる関係になれたらいいと思っている。</p> <p>○どういう場面で大人、年配の方と付き合うきっかけができたか。</p> <p>⇒日々の登下校中の会話だったり、地区の総会と一緒にいって行き大人たちから話しかけてもらったりしたことが一つのきっかけで、地域と自分は別々だという認識にならなかった。</p> <p>6 閉会</p>
傍聴者	1 名
会議資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 33 期新潟市社会教育委員会議（第 4 回）次第</li> <li>・ 報告 1 第 49 回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会参加報告（小川委員、事務局）</li> <li>・ 報告 2-1～6 「南区コミュニティ・コーディネーター育成講座」視察 参加報告（岡委員、小川委員、笹川委員、杉山委員、田中宏和委員、山田委員）</li> <li>・ 報告 3-1～4 「そらいろ子ども食堂」視察 参加報告（岡委員、雲尾委員、笹川委員、杉山委員）</li> <li>・ 協議 1 第 33 期新潟市社会教育委員会議建議について</li> <li>・ 協議 2 新潟市教育委員との懇談会について</li> <li>・ 協議 3 第 5 回社会教育委員会議の日程について</li> <li>・ 事例研究 「地域」を舞台にした循環型生涯学習について（第 32 期建議から）</li> <li>・ 事例研究 中之口若者有志グループ「やっこて」活動の活動について</li> </ul>